

税ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノト爲リタルトキハ類似ノ他ノ家屋ノ賃貸價格ニ比準シテ家屋ノ賃貸價格ヲ設定ス(同上)

第六條 家屋税ノ賦課期日後建築セラレタル家屋ニ付テハ工事竣成ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ家屋税ヲ賦課ス(昭和七年十月勅令第三百二十四號改正、舊第三條)

2 大正十五年法律第二十四號第十一條ノ規定ニ基キテ家屋税ヲ賦課セサル家屋又ハ法律ニ依リテ家屋税ヲ賦課スルコトヲ得サル家屋カ家屋税ノ賦課期日後之ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ家屋税ヲ賦課ス

3 家屋税ノ賦課期日後家屋カ滅失シ其ノ他家屋トシテノ効用ヲ失ヒタルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ月迄月割ヲ以テ家屋税ヲ賦課ス大正十五年法律第二十四號第十一條ノ規定ニ基キテ家屋税ヲ賦課セサル家屋又ハ法律ニ依リテ家屋税ヲ賦課スルコトヲ得サル家屋ト爲リタルトキ亦同シ

4 家屋税ノ賦課後前項ノ事實ヲ生スルモ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セス

第七條 前條(昭和六年四月勅令第四十九號)ニ依リテ賦課スル家屋ノ賃貸價格ニ對スル賦課率ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ府縣ニ於テ之ヲ定ム(昭和六年四月勅令第四十九號ヲ以テ第二項削除)

第九條 前條ノ規定ハ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テ賦課スヘキ家屋税ニ關シ之ヲ準用ス

第十條 戶數割ヲ賦課スル市町村ニ於テ賦課スヘキ家屋税附加税ノ賦課率ハ本稅百分ノ五十以內トス

2 特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ課税スルコトヲ得

3 左ニ掲クル場合ニ於テハ特ニ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

一、内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二、非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三、水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四、傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

4 前二項ノ規定ニ依リテ制限外課税ヲ爲スハ特別地稅附加税カ大正十五年法律第二十四號第七條ノ規定ニ依リテ制限外課税ヲ爲ス場合ニ限ル但シ特別地稅附加税ナルトキハ地租附加税又ハ段別割カ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依リテ制限外課税ヲ爲ス場合ニ限ル

第十一條 内務大臣及大藏大臣カ戶數割ヲ賦課シ難キモノト認メタル市町村ニ於テ賦課スヘキ家屋税附加税ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一、市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十六但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加税ヲ賦課スル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十

二、町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十但シ明治四十一年法律第三十七號第三條第三項ノ規定ニ依リテ所得稅附加税ヲ賦課スル場合ニ稅テハ當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ五十五

2 特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

第十二條 大正十五年法律第二十四號第十五條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一項 遊藝場ノ營業ニ付テハ其ノ賦課後營業ノ承継アリタル場合ニ於テハ前營業者ノ納稅ヲ以テ後ノ營業者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セス

第十四條 營業稅ノ課稅標準ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第十五條 年稅又ハ期稅タル營業稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對シテハ其ノ發生ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ營業稅ヲ賦課ス

第十六條 營業稅附加稅ノ賦課率ハ本稅百分ノ九十以內トス

第十七條 大正十五年法律第二十四號第十九條ノ規定ニ依リ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

遊藝場  
水車  
市場

地方税ニ關スル法律施行ニ關スル件



- 2 第十五條第一項、第二項及第五項ノ規定ハ戶數割ノ賦課ニ之ヲ準用ス但シ戶數割ノ賦課後納稅義務消滅スルモ其ノ賦課額ハ之ヲ變更セズ
- 第二十九條 市町村長ハ其ノ市町村住民ニ非サル者(法人ヲ除ク)ノ當該市町村內ニ於テ生スル其ノ年度分所得及其ノ所得ノ基本タル事實ヲ毎年四月末日迄ニ其ノ住所地市町村長ニ通報スヘシ但シ當該市町村ニ於テ其ノ者ニ戶數割ヲ賦課スルトキ又ハ其ノ住所地市町村ニ於テ戶數割ノ賦課ヲキトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十七條 戶數割ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 一、市ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル市稅豫算總額ノ百分ノ三十七
  - 二、町村ニ在リテハ其ノ總額當該年度ニ於ケル町村稅豫算總額ノ百分ノ六十
- 2 特別ニ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得
- 第二十五條 本令中市町村ニ對スル許可ノ職權ハ內務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得
- 第二十九條 本令中府縣、府縣知事、府縣條例又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官北海道條例又ハ町村ニ準スルモノニ之ヲ適用ス (昭和六年四月勅令第四十九號ヲ以テ第二項ニ改正シ七年同第三百二十四號改正)
- 第三十條 北海道移住民ニシテ主トシテ耕作又ハ牧畜ノ事業ニ引續キ從事シ移住ノ日ヨリ三年ヲ經過セサル者ニ對シテハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

附 則

- 1 本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス
  - 2 明治三十二年勅令第二百七十六號府縣稅戶數割規則及大正十一年勅令第二百八十二號ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス
  - 3 明治十三年第十七號布告第九條ノ規定ニ依リテ爲シタル處分ニシテ第十七條第一項ノ課目ニ該當セルモノニ對スルモノハ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スル雜種稅ノ課目ニ對スルモノニ限リ之ヲ第十七條第三項ノ規定ニ依リテ爲シタル許可ト看做ス
  - 4 本令施行ノ際現ニ府縣稅家屋稅附加稅ヲ賦課スル市町村ハ第十一條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタルモノト看做ス
  - 5 市町村特別稅家屋稅及之ニ類スル特別稅ニ關スル條例ニシテ本令施行ノ際內務大臣及大藏大臣ノ指定スルモノハ大正十五年度分限リ其ノ効力ヲ失フ
  - 6 戶數割總額申納稅義務者ノ資産ノ狀況ニ依リテ算定シ賦課スル額ハ特別ノ事情アル市町村ニ於テハ當分ノ開戶數割總額ノ十分ノ四迄ト爲スコトヲ得
- 公 告 (昭和六年四月) 勅令第四十九號
- 1 本令ハ昭和六年年度分ヨリ之ヲ適用ス
  - 2 昭和六年年度分ニ付テハ第十六條第一項ノ改正規定中百分ノ九十トアルハ百分ノ八十九トス但シ營業稅年額二十五圓ヲ超ユル金額ニ對シテハ百分ノ八十トス
  - 3 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業ニ對スル昭和六年年度分營業稅ヲ分別

- シテ納メタル場合ニ於テ其ノ營業稅ノ年額貳拾五圓ヲ超ユルトキハ前項但書ノ規定ハ賦課ノ歩合ニ依リ算出シタル本稅額ヨリ貳拾五圓ニ賦課ノ歩合ヲ乘シテ得タル金額ヲ控除シタル殘額ニ付之ヲ適用ス
  - 4 北海道ノ府縣カ營業稅附加稅ノ制限外課稅ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ必要アルトキハ昭和八年度分迄ニ限り第十三條ノ制限ヲ超過シテ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得
  - 5 前項制限外ノ賦課額ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
  - 6 第四項ノ場合ニ於テハ制限ヲ超過セタル營業稅及第十二條ニ掲タル營業ニ對シ賦課スル營業稅モ亦制限外ノ賦課ヲ爲スモノト看做シ其ノ制限外ノ賦課額ニ對シ前項ノ規定ヲ適用ス
  - 7 第四項及前項ノ營業稅ノ制限外ノ賦課率又ハ賦課定額ハ之ヲ制限内ノ賦課率又ハ賦課定額ト區分シテ定ムルハシ
  - 8 昭和六年度乃至同八年度分ニ限り營業稅ノ賦課率又ハ賦課定額ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 1 本令ハ昭和八年度分ヨリ之ヲ適用ス
  - 2 本令施行後第一回ノ家屋賃賃價格ノ改訂ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ行フ但シ府縣條例(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市條例)ノ定ムル所ニ依リ昭和七年度分家屋賃賃價格ヲ以テ第一回ノ改訂家屋賃賃價格ト爲スコトヲ防ケス
  - 3 前項但書ノ場合ニ於テハ第三條第一項ノ期間ハ昭和七年度ヨリ之ヲ起算ス
  - 4 昭和八年度分ニ限り第一回ノ改訂賃賃價格ヲ家屋稅ノ課稅標準トス

### 地方税ニ關スル法律施行規則

(大正十五年十一月二十七日)  
內務、大藏省令

- 第一條 大正十五年法律第二十四號第十一條各號ノ家屋ノ範圍ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 營業稅ハ營業ノ純益ヲ標準トシ又ハ營業ノ收入金額(賣上金額、請負金額、報償金額ノ類ヲ含ム)資本金額營業用建物ノ賃賃價格若ハ從業者ノ數ヲ標準トシテ之ヲ賦課シ又ハ定額ヲ以テ之ヲ賦課ス
- 2 前項ノ課稅標準其ノ他營業稅ノ賦課方法ニ付テハ當分ノ間內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 營業稅法第七條ノ規定ハ營業稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス
- 2 専ラ行商又ハ露店營業ヲ爲ス者ニ對シテハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
- 3 大正十五年法律第二十四號第十七條ノ規定ニ基キ營業稅ヲ賦課スルヲ不適當トスルモノハ前三項ニ定ムルモノノ外府縣ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第四條 船ニ對シテハ主タル碇繋場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス
- 2 前項ノ主タル碇繋場ナキトキ又ハ主タル碇繋場ノ所在地ニ付關係府縣ニ於テ異議アルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 車ニ對シテハ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス
- 第六條 水車、電柱及金庫ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス
- 第七條 市場ニ對シテハ所在地府縣ニ於テ其ノ經營者ニ雜種稅ヲ賦課ス
- 第八條 牛馬及犬ニ對シテハ飼育地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第九條 貯蓄ノ免許ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十條 層書ニ對シテハ層敷地府縣ニ於テ其ノ家畜ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第十一條 不動産ヲ取得スル者ニ對シテハ其ノ不動産所在ノ府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十二條 左ニ掲クル不動産ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

一 家督相続又ハ遺産相続ニ因ル不動産ノ取得

二 法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得

三 信託財産ニシテ委託者カ信託行為ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキ不動産ヲ委託者ヨリ受託

者ニ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得但シ當該不動産ニ付其ノ後受益者ヲ變更シタル場合及信託法

第六十二條ノ規定ニ依リ固有財産ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動産ノ取得アリタルモノト

看做シ雜種稅ヲ賦課ス

四 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ不動産ノ取得

五 信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得

第十三條 漁業ニ對スル雜種稅ハ當分ノ間從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

二 新ニ漁業ニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ノ變更ヲ爲サントスルト

キハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ其ノ舊慣ヲ改メ其ノ他賦課方法ヲ變更スルコトナク

シテ賦課率ヲ低減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於

テ雜種稅ヲ賦課ス其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ課セサルトキハ三月以上滞在ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第十五條 同一人ニシテ遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ノ二以上ニ該當ス

ルトキハ其ノ一ニ就キ雜種稅ヲ賦課ス其ノ稅額異ルトキハ多キニ從フ

第十六條 演劇其ノ他ノ興行ヲ爲ス者及遊興ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ行為地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課

ス

第十七條 遊興ニ對シ消費金額ノ全部ヲ標準トシテ賦課スル雜種稅ハ遊興者一人當一回ノ消費金額ニ

關ニ滿テサルモノニ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十八條 第四條乃至前條ニ定ムルモノノ外雜種稅ノ課稅標準及其ノ賦課率又ハ賦課額其ノ他賦課ニ

關シ必要ナル事項ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條 第三條第三項ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第二十條 戶數割納稅義務者ノ責力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス

一 營業ニ非サル資金ノ利子並公債、社債、預金及貯金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ

收入金額但シ無記名株式ノ配當ニ付テハ同期間内ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額株式ノ消却ニ因リ支

拂ヲ受タル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受タル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金

額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前

第九條 狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十條 屠畜ニ對シテハ屠殺地府縣ニ於テ其ノ家畜ノ所有者ニ雜種稅ヲ賦課ス

第十一條 不動産ヲ取得スル者ニ對シテハ其ノ不動産所在ノ府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課ス

第十二條 左ニ掲クル不動産ノ取得ニ對シテハ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

一 家督相続又ハ遺産相続ニ因ル不動産ノ取得

二 法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得

三 信託財產ニシテ委託者カ信託行為ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキ不動産ヲ委託者ヨリ受託

者ニ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得但シ當該不動産ニ付其ノ後受益者ヲ變更シタル場合及信託法

第六十二條ノ規定ニ依リ固有財產ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動産ノ取得アリタルモノト

シテ看做シ雜種稅ヲ賦課ス

四 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ不動産ノ取得

五 信託ヲ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得

第十三條 漁業ニ對スル雜種稅ハ當分ノ間從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

二 新ニ漁業ニ對シ雜種稅ヲ賦課セントスルトキ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ノ變更ヲ爲サントスルト

キハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ其ノ舊慣ヲ改メ其ノ他賦課方法ヲ變更スルコトヲク

シテ賦課率ヲ低減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シテハ其ノ住所地府縣ニ於

テ雜種稅ヲ賦課ス其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ課セサルトキハ三月以上滞在ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第十五條 同一人ニシテ遊藝師匠、遊藝人、相撲、俳優、藝妓其ノ他之ニ類スル者ノ二以上ニ該當ス

ルトキハ其ノ一ニ就キ雜種稅ヲ賦課ス其ノ稅額異ルトキハ多キニ從フ

第十六條 演劇其ノ他ノ興行ヲ爲ス者及遊興ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ行為地府縣ニ於テ雜種稅ヲ賦課

ス

第十七條 遊興ニ對シ消費金額ノ全部ヲ標準トシテ賦課スル雜種稅ハ遊興者一人當一回ノ消費金額ニ

關シ必要ナル事項ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 第四條乃至前條ニ定ムルモノノ外雜種稅ノ課稅標準及其ノ賦課率又ハ賦課額其ノ他賦課ニ

關シ必要ナル事項ハ府縣ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條 第三條第三項ノ規定ハ雜種稅ノ賦課ニ之ヲ準用ス

第二十條 戶數割納稅義務者ノ責力算定ノ標準タル所得額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ計算ス

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並公債、社債、預金及貯金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受タル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ

收入金額但シ無記名株式ノ配當ニ付テハ同期間内ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額株式ノ消却ニ因リ支

拂ヲ受タル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受タル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金

額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受タル利益ノ配當ト看做ス

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前

前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額ノ六、前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額ノ二、信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得額ヲ計算ス

3 第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相続人ノ所得ハ之ヲ相続人ノ所得ト見做シ第六號ノ所得ニ付テハ相続シタル資産又ハ營業ハ相続人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得額ヲ計算ス但シ被相続人ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ算入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

4 年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戸數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ最近ノ戸數割賦課ノ時ニ算定シタル所得額ヲ以テ其ノ資力算定ノ標準トス但シ未タ其ノ所得ノ算定ナカリシ者ニ關シテハ年度開始ノ日ノ屬スル年ヲ基準トシ前第一項各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條 前條第一項第二號及第六號ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕料又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二十二條 第二十條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス

第二十三條 第二十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸

給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二、三千圓以下ナルトキハ同十分ノ三、千五百圓以下ナルトキハ同十分ノ四、八百圓以下ナルトキハ同十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十四條 第三十條乃至前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ納稅義務者及之ト生計ヲ共ニスル同居者中年度開始ノ日ニ於テ年齢十四歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス

一 所得千圓以下ナルトキ  
 一 年齢十四歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者 一人ニ付 百圓以内  
 二 所得二千圓以下ナルトキ 一人ニ付 七拾圓以内  
 三 所得三千圓以下ナルトキ 一人ニ付 五拾圓以内

2 前項ノ不具癡疾者トハ心神喪失ノ狀況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ云フ

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ戸數割納稅義務者ノ資力算定ノ標準タル所得額ニ之ヲ算入セス

一 軍人從軍中ノ俸給及手當  
 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ隱退料



- 三 旅費、學資金、法定扶養料及救助金
  - 四 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
  - 五 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ外國ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
- 第二十六條 戶數割納稅義務者第二十條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年一月三十日迄ニ戶數割ノ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十條第四項但書ニ該當スル者ハ賦課後十四日迄ニ賦課額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得
- 2 市町村前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ當該所得額ヲ査覈シ其ノ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得額ヲ更訂シ之ヲ基準トシテ更ニ其ノ者ノ資力ヲ算定シ其ノ者ニ付テノミ戶數割ノ賦課額ヲ減スルコトヲ得
  - 3 年度開始ノ日ノ屬スル年ノ翌年ニ戶數割ヲ賦課スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依リ更訂シタル所得額ニ依リ其ノ者ノ資力ヲ算定シ戶數割賦課後前二項ノ事實ヲ生シタルトキハ其ノ者ニ付テノミ戶數割ノ賦課額ヲ減スルコトヲ得
- 第二十七條 大正十五年法律第二十四號第二十六條ノ規定ニ依リ戶數割ヲ賦課スルヲ不適當トスル者ハ市町村ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十八條 大正十五年勅令第三百三十九號第二十八條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル事項ニ付テノ許可ノ職權ハ府縣知事ニ之ヲ委任ス
- 一 同令第十條第二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シ課稅スルコト
  - 二 同令第十條第三項ノ規定ニ依リ同條第二項ノ制限ヲ超過シ同條第一項ノ制限率ノ百分ノ五十以

内ニ於テ課稅スルコト

- 三 同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ市ニ於テ戶數割總額カ當該年度ノ市稅豫算總額ノ百分ノ四十七以內ニ於テ課稅スルコト
  - 四 同令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ制限ヲ超過シ町村ニ於テ戶數割總額カ當該年度ノ町村稅豫算總額ノ百分ノ七十以內ニ於テ課稅スルコト
- 第二十九條 本令中府縣、府縣知事又ハ町村ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ町村ニ準スルモノニ之ヲ適用ス

附 則

- 1 本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス
- 2 府縣稅戶數割規則施行細則ハ大正十五年度分限り之ヲ廢止ス

一、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

二、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

三、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

四、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

五、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

六、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

七、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

八、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

九、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

十、昭和三十二年四月一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ

昭和六年地方税ニ關スル法律中、地方税制限ニ關ス

ル法律中及都市計画法中改正法律施行令 (昭和六年四月一日勅令第五十號)

- 第一條 市町村長ハ昭和七年三月三十一日迄ノ間從前ノ地租名寄帳ニ依リ從前ノ地價及地租ヲ整理スヘシ
- 第二條 昭和七年三月三十一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆シタル土地アルトキハ市町村長ハ地租法第三十三條ノ規定ニ準シ地價ヲ定ムヘシ
- 第三條 昭和六年法律第五十一號附則第三項ノ規定ニ依リ地租附加税ヲ賦課スルトキハ地租法ニ依リ昭和六年分ノ地租ヲ徵收スル土地ニ對シ之ヲ賦課スヘシ
- 第四條 昭和六年法律第五十號附則第二項ノ規定ニ依リ特別地稅又ハ其ノ附加税ヲ賦課スルトキハ地租法第七十條ノ規定ニ依リテ昭和六年分ノ地租ヲ免除セラレタル田畑ニ對シ之ヲ賦課スヘシ
- 第五條 第三條又ハ前條ノ規定ハ昭和六年法律第三十號附則第三項ノ規定ニ依リ地租割又ハ特別地稅ヲ賦課スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第六條 昭和六年法律第五十一號附則第四項及同年法律第五十號附則第三項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得ヘキ制限外賦課率ハ左ノ各號ニ掲クル比率ノ範圍内トス
  - 一 昭和六年度分ハ地租附加税ニ在リテハ法律ニ規定スル差額ノ地租額ニ對スル比率、特別地稅ニ在リテハ其ノ比率ノ千分ノ四十、特別地稅附加税ニ在リテハ其ノ比率ノ三十一分ノ四十

昭和六年地方税ニ關スル法律中、地方税制限ニ關スル法律中及都市計画法中改正法律施行令

- 二 昭和七年度分ハ地租附加税ニ在リテハ法律ニ規定スル差額ノ七分ノ六ノ地租額ニ對スル比率、特別地税ニ在リテハ其ノ比率ノ千分ノ三十八、特別地税附加税ニ在リテハ其ノ比率ノ三十一分ノ三十八
- 三 昭和八年度分以降ハ前號ノ比率ヨリ其ノ六分ノ一ヲ毎年度遞減シタル比率ニシテハ前項ノ規定ニ依リ課税スルハ營業收益税附加税、所得税附加税、特別地税又ハ其ノ附加税ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第五條第一項及大正十五年法律第二十四號第七條第一項ノ制限ニ達シタルトキニ限ル但シ特別地税又ハ其ノ附加税ト段別割ト併課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキハ特別地税又ハ其ノ附加税カ制限ニ達シタルモノト看做ス
- 第七條 昭和六年法律第五十一號附則第五項及同年法律第五十號附則第四項ニ該當スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ掲クル比率ヲ以テ明治四十一年法律第三十七號第一條又ハ第四條及大正十五年法律第二十四號第三條乃至第五條ノ制限ニ代ルヘキ制限トス
  - 一 昭和六年度分ハ地租附加税ニ在リテハ從前ノ地租又ハ地價ヲ標準トシ從前ノ制限率ニ依リ賦課スルコトヲ得ヘキ地租附加税額ト特別地税額又ハ其ノ附加税額トノ合算額ノ地租額ニ對スル比率特別地税ニ在リテハ其ノ比率ノ千分ノ四十、特別地税附加税ニ在リテハ其ノ比率ノ三十一分ノ四十
  - 二 昭和七年度分以降ハ地租附加税ニ在リテハ前號ノ比率ノ三十八分ノ四十二法律ニ規定スル超過額ノ七分ノ一ノ地租額ニ對スル比率ヲ毎年度遞増シタル比率、特別地税ニ在リテハ各年度分ノ比率ノ千分ノ三十八、特別地税附加税ニ在リテハ各年度分ノ比率ノ三十一分ノ三十八

- 2 前項ニ依リ算出シタル比率ハ地租附加税ニ付テハ百分位未滿ノ端數ハ之ヲ四捨五入シ特別地税又ハ其ノ附加税ニ付テハ千分位又ハ百分位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 第八條 第六條及第七條ノ地租額ノ算定ニ關シテハ内務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第九條 北海道、府縣以外ノ公共團體ニ對スル昭和六年法律第五十一號附則第四項及同年法律第五十號附則第三項ノ規定ニ依ル許可ノ職權ハ之ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ委任ス但シ明治四十一年法律第三十七號第五條第二項又ハ大正十五年法律第二十四號第七條第二項ノ規定ニ依リ制限外課税ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ制限外課税カ制限率ノ百分ノ五十ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更等ニ依リ本令ニ據リ難キ事項ニ付テハ北海道廳長官又ハ府縣知事ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ第一條又ハ第二條中市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス
- 2 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ第一條又ハ第二條中市町村長ニ關スル規定ハ組合管理者ニ之ヲ適用ス
- 3 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ第一條又ハ第二條中市町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和六年地方税ニ關スル法律中、地方税制限ニ關スル法律中及都市計画法中改正法律施行令



2 昭和六年法律第五十一號同年法律第五十號及同年法律第三十號施行令第十一條第二項及第三項ノ規  
定ハ前項ノ適用ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス

一 市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數左ノ如シ  
一 人口五千未満ノ市町村 六人  
二 人口五千以上一萬未満ノ市町村 九人  
三 人口一萬以上二萬未満ノ市町村 十二人  
四 人口二萬以上五萬未満ノ市町村 十五人  
五 人口五萬以上十萬未満ノ市町村 十八人  
六 人口十萬以上ノ市町村 二十人  
二 人口十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口二十萬ヲ加フ

家屋賃貸價格調査令

(昭和四年十二月廿九日  
勅令第四百三號)

改正 (昭和七年十月廿九日  
勅令第三百二十五號)

第一章 家屋稅調查委員

第一條 大正十五年法律第二十四號ニ規定スル家屋稅調查委員ハ第一次家屋稅調查委員、第二次家屋  
稅調查委員及特別家屋稅調查委員トス (昭和七年十月勅令第三百二十五號改正)

第二章 第一次家屋稅調查委員

第二條 第一次家屋稅調查委員 (以下本章ニ於テ之ヲ調査委員ト稱ス) ハ各市町村ノ區域ニ之ヲ置キ  
市町村長及家屋稅調查員 (以下本令ニ於テ之ヲ調査員ト稱ス) ヲ以テ之ヲ組織ス

2 調査員ハ市町村ノ區域ニ於テ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

第三條 各市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數左ノ如シ  
一 人口五千未満ノ市町村 六人  
二 人口五千以上一萬未満ノ市町村 九人  
三 人口一萬以上二萬未満ノ市町村 十二人  
四 人口二萬以上五萬未満ノ市町村 十五人  
五 人口五萬以上十萬未満ノ市町村 十八人  
六 人口十萬以上ノ市町村 二十人  
2 人口十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口二十萬ヲ加フ

- ル毎ニ調査員二人ヲ増加ス
- 3 調査員ノ定數ハ人口ニ増減アルモ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス
- 4 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得
- 2 前項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ
- 5 調査員ノ總選舉ハ家屋賃賃價格ヲ改訂スヘキ年度ノ四月一日ノ屬スル年ニ之ヲ行フ (昭和七年十月勅令第三百二十五號本條改正)
- 2 調査員ハ其ノ區域ノ屬スル區域ニ於ケル第二次家屋稅調査委員ノ會議ノ閉會ニ依リ其ノ任ヲ終ル
- 6 市町村内ノ家屋ニ付家屋稅ヲ納ムル者ハ當該市町村ノ區域ニ於テ調査員ノ選舉權ヲ有ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス
  - 一 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
  - 二 租稅滯納處分中ノ者
  - 三 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
  - 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
- 7 市町村内ニ住所ヲ有シ且其ノ市町村ノ區域ニ於テ選舉權ヲ有スル年齢二十五年以上ノ者ハ當該市町村ノ區域ニ於テ調査員ノ被選舉權ヲ有ス但シ禁治產者及準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス
- 8 調査員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ第三十一條ノ例ニ依リ之ヲ補充スヘキ當選者ヲ定ムヘシ (昭和七年十月勅令第三百二十五號ヲ以テ第三項削除)
- 2 前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍缺員アル場合ニ於テ其ノ缺員方當該市町村ノ區域ニ於ケル調

- 4 調査員ノ定數ノ三分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ補缺選舉ヲ行フヘシ
- 9 市町村長ハ選舉期日前四十日目ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 10 市町村長ハ選舉期日前二十日目ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ
  - 1 縦覽ノ場所ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ之ヲ告示スヘシ
  - 11 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定シ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スヘシ
  - 2 市町村長前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ申立人ニ理由ヲ附シタル決定書ヲ交付シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ
  - 3 第一項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ受ケタル日ヨリ、其ノ他ノ者ニ在リテハ告示アリタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得
  - 12 選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日目ヲ以テ確定ス
    - 2 確定名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ
    - 3 前條第三項ノ場合ニ於テ裁決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市町村長ハ直ニ之ヲ修正シ併セテ其ノ旨ヲ告示スヘシ
    - 13 第十一條ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ裁決アリタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

- 2 天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ
- 3 前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縦覽、確定及異議決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 4 前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スヘシ
- 5 名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヒ縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス
- 6 投票分會ヲ設ケタル場合ニ於ケル選舉人ノ所屬及選舉人名簿ノ抄本ノ調製ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第十四條 府縣知事ハ選舉ノ期日前七日目迄ニ選舉ヲ行フヘキ區域、投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ調査員ノ員數ヲ告示スヘシ
- 2 天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該市町村ノ區域又ハ投票分會ノ區別ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日目迄ニ之ヲ告示スヘシ
- 第十五條 市町村長ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ選舉會場(投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ告示スヘシ
- 第十六條 市町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ閉閉シ其ノ取締ニ任ス
- 2 市町村長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ

- 3 投票分會ニ於テハ市町村長ノ指定シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ閉閉シ其ノ取締ニ任ス
- 4 市町村長ハ投票分會ニ於テ投票スヘキ選舉人ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ
- 第十七條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
- 2 投票ハ一町村ノ區域ニ付テハ一人一票ニ限ル
- 3 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ至リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ
- 4 投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得
- 5 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
- 6 自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
- 7 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ
- 8 投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ
- 第十八條 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定決定書又ハ裁決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 2 確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ
- 第十九條 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分

- 會長之ヲ決スヘシ
- 2 投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ
- 3 前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ
- 第二十條 第三十五條ノ選舉及補缺選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ
- 第二十一條 市町村長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ
- 第二十二條 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日(投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日)選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ
- 前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ヅ第十九條第二項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ
- 8 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ
- 4 天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市町村長ハ更ニ開票ノ時日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ
- 第二十三條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十四條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得
- 2 前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
  - 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

- 二 現ニ調査員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ認メ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
- 第二十六條 投票ノ効力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ
- 第二十七條 調査員ノ選舉ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齢同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二十八條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ
- 第二十九條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ
- 2 投票分會長ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ
- 3 投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ
- 4 選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ調査員ノ任期間市町村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ
- 第三十條 當選者定マリタルトキハ市町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏



名ヲ告示スヘシ當選者ナキトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

2 當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ市町村長ニ申立ツヘシ

3 當選者前項ノ申立ヲ其ノ期間内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

4 市町村長第二項ノ規定ニ依ル申立ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

5 當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルニ至リタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第二十一條 當選者左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テ他ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

一 當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ  
二 第二十八條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ  
三 第三十四條ノ規定ニ依ル異議申立又ハ訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

2 前項ノ場合ニ於テ當選者ト爲ラザリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

8 第一項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ  
第三十二條 當選者當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ併セテ其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十三條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十四條 選舉人選舉又ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ、當選ニ關シテハ第三十條第一項又ハ第五項ノ告示ノ日ヨリ七日内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十四日内ニ之ヲ決定スヘシ

2 前項ノ決定ニ關シテハ第十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

3 第八條第二項又ハ第三十五條ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ裁決アル迄ハ之ヲ行フコトヲ得ス

4 選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ裁決アル迄ハ調査員ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條 選舉無効ト確定シタルトキ、當選者ナキトキ又ハ當選者ナキニ至リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキ又ハ員數ニ達セサルニ至リタルトキ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

第三十六條 調査員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ市町村長之ヲ決定ス

2 市町村長前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ本人ニ理由ヲ附シタル決定書ヲ交付スヘシ

3 第一項ノ決定ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴訟スルコトヲ得

- 4 第三十四條第四項ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十七條 調査委員ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ヲ調査ス但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（昭和七年十月勅令第三百二十五號但書追加）
- 2 調査委員ハ其ノ調査員中ヨリ第二次家屋稅調查委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉スヘシ
- 3 前項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ調査員ノ定數ハ人口十萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ三人、人口二萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ二人、其ノ他ノ調査委員ニ在リテハ一人トス
- 4 前項ノ定數ハ人口ニ増減アルモ第一次家屋稅調查委員ヲ組織スヘキ調査員ノ定數ヲ變更スル場合ニ非サレハ之ヲ増減セス
- 5 第二項ノ規定ニ依リ第二次家屋稅調查委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉シタルトキハ議長ハ直ニ其ノ氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
- 第三十八條 調査委員ハ市町村長ヲ以テ議長トス
- 第三十九條 調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ招集ス
- 2 招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ府縣知事市町村長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ
- 3 調査委員ノ會議ハ市町村長之ヲ閉閉ス
- 4 調査委員ノ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ム
- 第四十條 調査委員ハ調査員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席調査員定數ヲ缺キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 第四十一條 調査委員ノ議事ハ調査員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依リ議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲調査員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス
- 第四十二條 第三十七條第二項ノ規定ニ依リ調査委員ニ於テ行フ選舉ニ付テハ第十七條、第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ効力ニ關シ異議アルトキハ調査委員之ヲ決定ス
- 2 前項ノ選舉ニ付テハ調査委員ハ調査員ニ於テ異議ナキ場合ニ限り指名推薦ノ法ヲ用ヒ全員ノ同意ヲ得タル被指名者ヲ以テ當選者ト定ムルコトヲ得
- 第四十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
- 第四十四條 調査委員ニ書記ヲ置キ議長之ヲ任免ス
- 2 書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第四十五條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席者ノ氏名ヲ記載セシムヘシ
- 2 會議録ハ議長及調査員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ調査員ハ調査委員ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 3 議長ハ會議録ノ寫ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
- 第四十六條 市町村長ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ニ關スル下調査委員ニ提出スヘシ但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ關スル下調査委員ニ提出スヘシ（昭和七年十月勅令第三百二十五號但書追加）
- 2 調査委員前項ノ下調査ヲ受ケタルトキハ家屋ノ賃賃價格ヲ調査シ其ノ調査書ヲ作製シ直ニ第二次家屋稅調査員ニ之ヲ送付スヘシ（同上改正）

### 第三章 第二次家屋稅調查委員

第四十七條 第二次家屋稅調查委員（以下本章ニ於テ之ヲ調査委員ト稱ス）ハ數市町村ノ區域ヲ合セタル區域ニ之ヲ置キ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員一人及第一次家屋稅調查委員ニ於テ選舉シタル調査員ヲ以テ之ヲ組織ス

2 前項ノ區域ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十八條 調査委員ハ其ノ區域内ノ家屋ノ賃賃價格ヲ調査ス但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（昭和七年十月勅令第三百二十五號改正）

第四十九條 調査委員ハ第四十七條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員ヲ以テ議長トス

第五十條 調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ招集ス

2 招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前十日目迄ニ府縣知事之ヲ告示スヘシ

3 調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ開閉ス

4 調査委員ノ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ム

第五十二條 第四十條、第四十一條及第四十三條乃至第四十五條ノ規定ハ調査委員ニ之ヲ準用ス

第五十二條 第四十六條第二項ノ規定ニ依リ調査書ノ送付ナキトキハ調査委員ハ市町村長ニ同條第一項ノ下調査書ノ送付ヲ求ムヘシ（昭和七年十月勅令第三百二十五號改正）

### 第四章 家屋ノ賃賃價格ノ決定

第五十三條 府縣知事ハ第二次家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニ依リ家屋ノ賃賃價格ヲ決定スヘシ但シ第二次家屋稅調查委員ノ調査完了セサルトキ又ハ其ノ調査ヲ不當ナリト認ムルトキハ第五十四條ノ特別家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ（昭和七年十月勅令第三百二十五號但書中改正同號ヲ以テ第二項削除）

第五十四條 大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラス府縣知事ハ其ノ指定シタル官吏又ハ吏員三人乃至五人ヲ以テ組織シタル特別家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ（同上本條改正）

2 特別家屋稅調查委員ノ調査ノ方法ニ關シテハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

### 第五章 補則

第五十五條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ府縣知事必要ト認ムルトキハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間第三條第三項ノ規定ニ拘ラス市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數ヲ増減スルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テ選舉人名簿竝ニ調査員及第二次家屋稅調查委員ヲ組織スヘキ調査員ノ選舉、解任等ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十六條 第三條第一項及第二項竝ニ第三十七條第三項ノ人口ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十七條 法人タル選舉人ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ投票ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ第十七條第三項乃至第六項、第十九條第二項及第三項竝ニ第二十三條ノ規定ハ其ノ代人ニ之ヲ適用ス

2 禁治產者、準禁治產者及未成年者タル選舉人ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

ル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第五十九條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラズ市ノ區域ヲ數區域ニ分チ其ノ區域毎ニ第一次家屋稅調查委員ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル

一 第二條、第三條第一項及第二項、第六條、第七條、第八條第二項、第十四條第二項、第十七條第二項、第三十七條第一項及第三項、第四十六條第一項、第四十七條第一項並ニ第五十五條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村又ハ市町村ノ區域トアルハ市ノ區域ヲ分チタル區域トス

二 選舉人名簿ハ市ノ區域ヲ分チタル區域毎ニ之ヲ調製スヘシ

三 選舉長ハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トシ第二十一條、第二十二條第四項、第三十條第一項第二項第四項及第五項並ニ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル市長ノ職務ハ選舉長之ヲ行フ

四 第二條及第三十八條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村長トアルハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トス

第六十條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル (昭和七年十月勅令第三百二十五號改正)

一 第三十條第一項第四項及第五項、第三十七條第五項、第四十五條第三項並ニ第五十一條ノ規定ニ依ル報告又ハ送付ハ市長ニ對シ之ヲ爲スヘシ (同上)

二 第四條、第八條第二項、第十三條第三項及第四項、第十四條、第十七條第七項、第二十四條第一項、第三十二條、第三十九條第一項第二項及第四項、第四十七條、第五十條、第五十三條、第五十四條、第五十五條第一項並ニ前條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第六十一條 削除 (昭和七年勅令第三百二十五號)

第六十二條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ市ノ家屋稅ノ調査員ハ之ヲ府縣ノ家屋稅ノ調査員トス

2 前項ノ場合ニ於テ第六十條ノ規定ニ依リ市長ノ分チタル區域ハ之ヲ第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ分チタル區域ト看做ス (昭和七年十月勅令第三百二十五號改正)

第六十三條 北海道ニ於テハ本令中府縣又ハ府縣知事ニ關スル規定ハ北海道又ハ北海道廳長官ニ、町村町村長又ハ町村役場ニ關スル規定ハ町村町村長又ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第六十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第六十五條 交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本令ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ府縣知事ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和七年十月勅令第三百二十五號)

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條、第八條及第六十二條ノ改正規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

家屋賃賃價格調査令施行規則

(昭和四年十二月廿九日  
內務 大藏 省 令)

第一條 家屋賃賃價格調査令第三條第一項及第二項ノ人口ハ市制町村制施行規則第一條ノ規定ニ依リ人口トス但シ市制第八十二條第三項ノ市ノ區及家屋賃賃價格調査令第五十九條又ハ第六十條ノ規定ニ依リ市ノ區域ヲ分チタル區域ノ人口ニ付テハ府縣知事ノ告示シタル人口トス

2 家屋賃賃價格調査令第三十七條第三項ノ人口ハ市町村ノ區域ニ於ケル家屋稅調査員ノ定數ノ標準ト爲リタル人口トス

第二條 家屋賃賃價格調査令第四條第一項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一 選舉人名簿調製ノ期日ニ於テ投票分會ノ區劃内ニ住所ヲ有シタル選舉人ハ投票分會ニ於テ、其ノ他ノ選舉人ハ選舉會ニ於テ投票ヲ行フヘシ

二 市町村長ハ必要アルトキハ選舉人名簿ニ依リ投票分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

第三條 市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ從前ノ市町村ノ市町村長(又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者)タリシ者ハ直ニ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ選舉人名簿ヲ送付スヘシ但シ名簿ヲ分割スルニ非サレハ送付スルコト能ハサルトキ又ハ關係市町村ニ於ケル名簿方同一期日ニ依リ調製シタルモノニ非サルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 市町村長選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿ハ市町村ノ廢置分合ニ係ル地域ノ新ニ屬シタル家屋賃賃價格調査令施行規則

市町村ニ於ケル選舉人名簿ト看做ス

第五條 第三條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿確定前ナルトキハ名簿ノ縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事（府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニアリテハ市長）ノ定ムル所ニ依ル

2 前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事（府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市長）ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第六條 家屋賃賃價格調査令第五十七條ノ規定ニ依ル代人ハ左ニ掲クル者トス

一 會社ニ在リテハ業務ヲ執行スル社員、役員、其ノ他ノ法人ニ在リテハ之ニ準スル者

二 禁治産者ニ在リテハ後見人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人、未成年者ニ在リテハ法定代理人

2 代人ハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ選舉長、開票分會長又ハ投票分會長ニ差出スヘシ

第七條 選舉長（又ハ投票分會長）ハ選舉立會人（又ハ投票立會人）ノ面前ニ於テ選舉人ヲ選舉人名簿（又ハ選舉人名簿ノ抄本）ニ對照シタル後投票用紙（假ニ投票ヲ爲サシムヘキ選舉人ニ對シテハ併セテ封筒）ヲ交付スヘシ

第八條 選舉人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第九條 選舉人投票前選舉會場（又ハ投票分會場）外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ選舉長（又ハ投票分會長）ハ投票用紙（交付シタル封筒アルトキハ併セテ封筒）ヲ返付セシムヘシ

第十條 家屋賃賃價格調査令第二十四條第一項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一 府縣知事ハ開票分會ヲ設ケタルトキハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

二 開票分會ニ於テハ市町村長ノ指定シタル吏員開票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

三 市町村長ハ豫メ開票分會場ヲ告示スヘシ

四 開票分會ノ區劃内ノ投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘投票録及選舉人名簿ノ抄本（又ハ選舉人名簿）ト併セテ之ヲ開票分會長ニ送致スヘシ

五 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票分會長ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ

六 開票分會長ハ開票録ヲ作り開票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ開票立會人ト共ニ之ニ署名シ直ニ投票録及投票ト併セテ之ヲ選舉長ニ送致スヘシ

七 選舉長ハ總テノ開票分會長ヨリ第五號ノ報告ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日（又ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日）選舉會ニ於テ選舉立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査シ家屋賃賃價格調査令第二十二條第三項ノ規定ニ依リ爲シタル點檢ノ結果ト併セテ各被選舉人ノ得票總數ヲ計算スヘシ

八 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ選舉長ハ前號ノ規定ニ準シ其ノ部分ニ付前號ノ手續ヲ爲シ他ノ部分ニ於ケル各被選舉人ノ得票數ト併セテ其ノ得票總數ヲ計算スヘシ

九 家屋賃賃價格調査令第十六條第四項ノ規定ハ開票立會人ニ、同令第二十二條、第二十三條及第二十六條ノ規定ハ開票分會ニ於ケル開票ニ之ヲ準用ス

第十一條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ廢置分合又ハ境界變更ニ係ル地域ノ從前屬シタル市町村ノ區域ニ於ケル家屋稅調査員其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ區域ニ於テ被選舉

權ヲ有スル者ナルトキハ之ヲ當該市町村ノ區域ニ於ケル家屋稅調查員トス  
2 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ廢置分合又ハ境界變更ニ係ル地域ノ新ニ屬シタル市カ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ其ノ市ノ家屋稅調查員ト爲リタル者ハ當該市ノ總選舉ニ依リ選舉セラレタル調査員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

3 第一項ノ家屋稅調查員第二次家屋稅調查委員ヲ組織スル者ナルトキハ之ヲ當該市町村ノ區域ニ於ケル第一次家屋稅調查委員ニ於テ選舉セラレタルモノト看做ス

第十二條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ家屋稅調查員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ市町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ缺員アルトキハ其ノ缺員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

2 前條第一項及第三項ノ場合ニ於テ家屋稅調查員又ハ第二次家屋稅調查委員ヲ組織スル家屋稅調查員家屋賃賃價格調査令第三條第一項又ハ第三十七條第三項ノ定數ヲ超ユルニ至リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

第十三條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ家屋稅調查員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲調査員其ノ定數ニ滿タサルニ至リタルトキ府縣知事(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市長)必要アリト認ムルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付選舉ヲ行フヘシ

2 前項ノ選舉ハ家屋賃賃價格調査令第三十五條ノ選舉又ハ補缺選舉ト同時ニ之ヲ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

3 第一項ノ選舉ニ依リ選舉セラレタル家屋稅調查員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル調査員ノ任期滿了

ノ日迄在任ス

第十四條 家屋賃賃價格調査令第五十八條、第六十三條及第六十四條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第十五條 第三條第二項ノ規定ニ依ル報告ハ府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ナル場合ニ於テハ市長ニ對シ之ヲ爲シ其ノ他ノ市ナル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十六條 家屋賃賃價格調査令第五十九條又ハ第六十條ノ規定ニ依リ其ノ區域ヲ數區域ニ分チタル市ニ於テハ本令中市町村ニ關スル規定ハ市ノ區域ヲ分チタル區域ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治三十年三月）
法律第二十一號
第一章 總 則
第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ
一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國
稅ヲ先取セサルモノトス
第四條 ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅
ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得（三十五年三月法律第三十六號改正）
一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
三 強制執行ヲ受クルトキ
四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
五 競賣ノ開始アリタルトキ
六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

國 稅 徵 收 法

（明治三十年三月）
法律第二十一號

第一章 總 則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ
一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國
稅ヲ先取セサルモノトス
第四條 ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅
ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得（三十五年三月法律第三十六號改正）
一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
三 強制執行ヲ受クルトキ
四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
五 競賣ノ開始アリタルトキ
六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ



第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（三十五年三月法律第三十六號、四十四年三月同第三十七號改正）

2 督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（同上）

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコト得（同上）

2 國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス（同上）

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス（同上）

第四條ノ五 同年ノ所得稅、地租、營業收益稅、資本利子稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得（卅五年三月法律第卅六號改正）

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル（同上）

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）

2 納稅管理人アル時ハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス（三十五年法律第三十六號、三十八年二月同第四十六號改正）

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

2 前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス（四十四年三月法律第三十七號、大正三年三月同第十二號改正）

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣

ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得  
 2 前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得  
 第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促ス  
 ヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス(三十五年三月法律第三十六號改正)  
 2 前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料、延滞金ヲ徵收ス(同上  
 及四十四年三月同第三十七號改正)

### 第三章 滞納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ (三十五年法律第三十六號改正)

- 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手数料、延滞金及税金ヲ完納セサルトキ (三十五年三月法律第三十六號追加四十四年三月同第三十七號改正)
- 二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ (三十五年三月法律第三十六號追加)

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手数料、延滞金、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム (三十五年三月法律第三十六號及四十四年三月同第三十七號改正)

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
  - 二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
  - 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
  - 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
  - 五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
  - 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
  - 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
  - 八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
  - 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手数料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス (三十五年三月法律第三十六號、四十四年三

月同第三十七號改正)

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ (三十五年三月法律第三十六號改正)

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

2 第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

3 前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ區戸長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他

ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ (三十五年三月法律第四十六號改正)

2 差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス (三十八年三月法律第四十六號追加)

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

2 前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス (三十五年三月法律第三十六號、四十四年三月同第三十七號改正)

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ (三十五年三月法律第三十六號追加三十八年三月法律第四十六號改正)

2 前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ (同上)

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ (同上追加)

2 差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ (同上)

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス (同上)

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (三十五年三月法律第三十六號改正)

2 公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買

上クルコトヲ得 (三十五年三月法律第三十六號改正)

3 債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス (三十八年三月法律第四十六號追加)

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス (三十五年三月法律第三十六號改正)

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス (三十五年三月法律第三十六號、四十四年三月同第三十七號改正)

2 賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツル迄ヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的物タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、延滞金、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツル迄ヲ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス (同上)

3 賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手数料、延滞金及滯納處分費ヲ徵シタル殘額力債權者

ニ交付スヘキ債務額及徵收スヘキ税金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲サ、ルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付ス物件ノ賣却後二年內ニ其ノ證明ヲ爲サ、ルトキ亦同シ (昭和六年三月法律第十六號改正)

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得 (四十四年三月法律第三十七號改正)

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得 (三十五年三月法律第三十六號改正)

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料、延滞金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス (三十五年三月法律第三十六號、四十四年三月同第三十七號改正)

### 第四章 罰 則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

2 差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

3 情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

4 前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附 則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

2【沖繩縣及】東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ノ施行セス

3 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

4【北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス】

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス (四十四年三月法律第三十七號)

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (大正三年三月法律第十二號)

本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (昭和六年三月法律第十六號)

國稅徵收法施行規則

(明治三十五年四月十一日 勅令第三百三十五號)

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得 (大正十一年三月勅令第七十號改正)

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

2 市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

2 納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

3 前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過タルコトヲ得ス (大正十一年三月勅令第七十號改正)

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官

ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

2 地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額  
滞納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモノニシテ納期ニ到リ稅  
金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類、酒精並酒精含有飲料ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅

三 製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ對スル清涼飲料種

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ  
申告スヘシ

2 納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

3 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀  
ヲ發スヘシ

2 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十一條ノ二 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限

ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各  
號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス (四十四年  
十二月勅令第二百八十二號本條追加)

一 納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方  
法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

2 督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ  
十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徵收セス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、延滞金、  
滞納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ (同上改正)

2 前項ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ發行シタル抵當權ニ付其ノ證券所持人分明ナラサルトキハ債務者又ハ  
證券ノ讓渡人等ニ付調査シ尙分明ナラサルトキハ前項ニ依リ通知スヘキ事項ヲ公告スヘシ (昭和七  
年七月勅令第一八八號改正)

3 前二項ノ場合ニ於テ國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ  
添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ (同上改正)

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ  
強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ (四十四年十二月勅令第二百八十二號改正)

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所、年月日

2 國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

3 收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、延滯金、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ (四十四年十二月勅令第二百八十二號改正)

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

十二月勅令第二百八十二號改正)

一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三 入札又ハ競賣ノ場所、日時

四 開札ノ場所、日時

五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

2 加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得 (大正九年十二月勅令第五百八十八號追加)

3 落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス (同上改正)

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏

ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ (三十八年勅令第六十七號改正)

2 前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産管財人又ハ清算人ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス (四十四年十二月勅令第二百八十二號改正)

第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

2 賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附 則

第三十二條 市町村制ヲ施行セサル地方(稅務署所在地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒類、酒精、酒精含有飲料【並醬油】ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ (大正十一年勅令第七十號改正)

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス



國稅徵收法施行細則

(明治三十年六月二十六日) (大藏省令第十號)

- 第一條 國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ (三十四年九月大藏省令第十八號、三十五年四月同第八號同年十一月同第二十六號改正)
- 第二條 市町村ノ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ市町村ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ (三十五年十一月大藏省令第二十六號改正)
- 第二條ノ二 稅務署長ハ納稅人又ハ市町村ノ爲便宜ト認ムル納付場所ヲ指定スヘシ (四十四年十二月大藏省令第四十一號追加)
- 2 納稅人又ハ市町村ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅スルヲ便宜トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得
- 第三條ノ一 市町村前條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ (三十五年四月大藏省令第八號改正)
- 第三條ノ二 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ (三十五年四月大藏省令第八號追加)
- 第四條 市町村其ノ領收シタル稅金ヲ日本銀行ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付書ヲ添附スヘシ (大正十一年三月大藏省令第二十八號改正)
- 第五條 市町村滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納報告書ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其旨ヲ通知スヘシ (三十五年十一月大藏省令第二十六號改正)

第三十條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十一條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十二條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十三條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十四條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十五條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十六條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十七條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十八條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第三十九條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第四十條 納稅人ハ納稅告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ添付シタル納稅告知書ニ依リテ納稅スルコトヲ得

第六條ノ一 稅務署長稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ但シ延滞金ヲ徵收スヘキモノニ付テハ第七號書式ニ依ルヘシ (三十五年十一月同第二十六號、四十年三月同第十二號、四十四年十二月同第四十一號改正)

第六條ノ二 前條ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ日本銀行ニ納付セシムルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ (四十年三月大藏省令第十二號追加四十四年十二月同第四十一號改正) (大正十一年三月大藏省令第二十八號改正)

一 市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第八號書式第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

二 收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

三 前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ二ヲ準用ス (大正四年七月大藏省令第十八號追加)

第六條ノ三 納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手数料ヲ日本銀行ニ納付スヘキ場合ニ於テハ前條第一號ノ納付書又ハ第二號ノ納付書及收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附シ稅務署ニ納付スヘキ場合ニ於テハ市町村又ハ收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附スヘシ (四十四年十二月大藏省令第四十一號追加)

第六條ノ四 督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ナルトキハ收稅官吏ハ其ノ納稅告知書ヲ以テ稅金ヲ領收スルコトヲ得 (同上)

第六條ノ五 前三條ノ規定ハ滯納報告後督促狀發付前稅金ヲ領收スル場合ニ之ヲ準用ス (同上)

第六條ノ六 延滞金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ稅金及督促手数料ト共ニ之ヲ稅務署ニ納付スヘシ (同上)

三 前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ三ノ規定ヲ準用ス (同上)

第七條 削除 (大正五年十二月大藏省令第三十三號)

第八條 削除 (四十四年十二月大藏省令第四十一號)

第九條 稅務署長國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證券ヲ交付スヘシ (三十四年九月大藏省令第八號、三十五年十一月同第二十六號改正)

表

第一何一號 國稅滯納者 財產差押證	稅務署 印
-------------------------	----------

表

「何」稅務署	「官」氏名
--------	-------

(三十四年九月大藏省令第十八號改正)

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十號書式、債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第十一號書式ノ差押通知書ヲ發スヘシ (四十四年十二月大藏省令第四十一號改正)

第十條ノ二 國稅徵收法施行規則第十二條第二項ノ公告ハ第十一號ノ二書式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十一條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ (三十五年四月大藏省令第八號、四十四年十二月同四十一號改正)

第十二條 收稅官吏財產ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得 (三十五年大藏省令第八號改正)

第十三條 入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財產ノ種類員數及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ (同上)

第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得 (三十五年四月大藏省令第八號改正)

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財産見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス (四十年十月大藏省令第四十二號改正)

第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ (三十四年九月大藏省令第十八號、三十五年十一月第二十六號改正)

第十七條ノ二 國稅徵收法第二十八條ニ依リ抵當證券所持人ニ債務額ヲ交付スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ提出セシメ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 債務額ノ全部ヲ交付シタルトキハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ二書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券交付登記所ニ送付スヘシ

二 前號以外ノ場合ニ於テハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ三書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券交付登記所ニ送付シテ其ノ記載ノ變更ヲ受ケタル後抵當證券所持人ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テ共同證券ニシテ數個ノ登記所ニ於テ記載ノ變更ヲ要スルトキハ其ノ一ノ登記所ニ證券ヲ送付シ其ノ登記所ヨリ順次他ノ登記所ニ之ヲ轉送スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ得

第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十三號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ (三十五年大藏省令第八號三十六年第十二號、四十四年同第四號改正)

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十四號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ (四十四年十二月大藏省令第四十一號改正)

第二十條 收稅官吏ハ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ヲ供託シタルトキハ其ノ旨債權者又ハ滯納者ニ通知スヘシ (同上)

附 則

本令ハ明治四十四年勅令第二百八十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十五年三月三十一日迄ハ延滯金ヲ徵收スヘキモノニ對スル督促狀ヲ除クノ外仍從來ノ書式ニ依ルコトヲ得 (四十四年十二月大藏省令第四十一號)

本令ハ大正四年一月勅令第六號施行ノ日ヨリ施行ス (大正四年一月大藏省令第二號) (書式略ス)

第十七條 代理人 代理人は、本細則の施行に關して、國稅廳長に對して、其の代理人の姓名、住所、及代表權の範圍を、書面にて報告しなければならない。

第十八條 公債の買入 公債の買入は、國稅廳長が、其の買入の時期、金額、及買入の場所を、公告することとする。

第十九條 公債の賣出 公債の賣出は、國稅廳長が、其の賣出の時期、金額、及賣出の場所を、公告することとする。

第二十條 公債の買入 公債の買入は、國稅廳長が、其の買入の時期、金額、及買入の場所を、公告することとする。

第二十一條 公債の賣出 公債の賣出は、國稅廳長が、其の賣出の時期、金額、及賣出の場所を、公告することとする。

第二十二條 公債の買入 公債の買入は、國稅廳長が、其の買入の時期、金額、及買入の場所を、公告することとする。

第二十三條 公債の賣出 公債の賣出は、國稅廳長が、其の賣出の時期、金額、及賣出の場所を、公告することとする。

第二十四條 公債の買入 公債の買入は、國稅廳長が、其の買入の時期、金額、及買入の場所を、公告することとする。

第二十五條 公債の賣出 公債の賣出は、國稅廳長が、其の賣出の時期、金額、及賣出の場所を、公告することとする。

國庫出納金端數計算法

(大正五年法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未満ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

2 命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未満ナルトキ又ハ之ニ一錢未満ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣葉印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

第七條

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ効力ヲ有ス

附 則

國庫田納金端數計算法

國庫田納金端數計算法

國庫田納金端數計算法

### 公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件

(大正五年勅令第二百九號)

第一條 國庫出納金端數計算法第六條ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ

市制第六條ノ市ノ區

水利組合

北海道土功組合

健康保險組合

朝鮮ノ道地方費、府、邑面郡島學校費、學校組合、及水利組合

臺灣ノ州、廳地方費、市街庄、及水利組合

樺太ノ町村

第二條 國庫出納金端數計算法第六條ノ公共團體ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ同法ヲ準用セス

一、法令ニ依リ當然公共團體ニ歸屬スル收入金

二、貨幣交換差金

三、外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金

四、缺損補填金

附則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 地 租 稅

(昭和六年三月三十一日法律第二十八號)

### 第一章 總 則

第一條 本法施行地ニ在ル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス

第二條 左ニ掲クル土地ニハ地租ヲ課セス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一、國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

二、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定

シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲナシタル日ヨリ一年內ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルモノヲ除

ク

三、府縣社地、郷村社地、招魂社地

四、墳墓地

五、公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六、用悪水路、溜池、堤塘、井溝

七、保安林

第三條 土地ニハ一筆毎ニ番地ヲ附シ其ノ地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸

價格ヲ除ク)ヲ定ム

第四條 稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録ス

第四節 土地ノ所在

一 地番

二 地目

三 地積

四 地積

五 賃賃價格

六 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

七 質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ノ住所及氏名又ハ名稱

本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準スヘキ地域ヲ以テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム

第六條 有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ之ヲ定ム

第一類地 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類地 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ各其ノ區別ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム

第七條 地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ定メ一平方メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハアールヲ單位トシテ之ヲ定メ一アールノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一アールノ百分ノ一未滿ナルモノニ付テハ一アールノ一萬分ノ一未滿ノ端數ヲ切捨ツ

第八條 地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃賃價格トス

賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第九條 賃賃價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回改訂ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

土地ノ異動ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アルトキハ類地ノ賃賃價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應シテ之ヲ定ム

第十條 地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス

第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 宅地租

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

二 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

三 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

四 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限  
 第三期 翌年三月一日ヨリ三十一日限  
 第四期 翌年五月一日ヨリ三十一日限  
 三 其ノ他

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限  
 第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

年額ノ四分ノ一  
 年額ノ四分ノ一  
 年額ノ四分ノ一  
 年額ノ二分ノ一  
 年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシテ登録セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ質權者又ハ地上權者トシテ登録セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條 土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積及賃貸價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ申告ナキトキ若ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セサルトキハ稅務署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第二章 土地ノ異動

第一節 有租地及無租地ノ轉換

第十四條 本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セサル土地（免租年期地、災害免租地及自作農免租

地ヲ含マス）ヲ謂ヒ有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ

第十五條 無租地カ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ但シ有租地カ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ官公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ヲ生シタルトキハ當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ定ム但特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ設定ス  
 土地臺帳ニ登録セラレタル無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十八條 新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ測量シテ其ノ地積ヲ定ム  
 土地臺帳ニ登録セラレタル無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ依リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地トナリタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地（開拓前ノ土地）相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得  
 第二十條 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立（干拓

ラ含ムノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得  
第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有租地ト爲リタル日ヨリ六十日以内ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第二十二條 開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ開拓減租年期ハ消滅ス  
2 開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セ

ス  
3 埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條 開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第二十四條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

2 開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リタルトキ直ニ原地相當ノ賃貸價格ヲ設定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス  
3 埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第二十五條 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ賃貸價格ヲ設定(第二十四條第三項ノ設定ヲ含ム)シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

2 開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第二十七條 有租地カ無租地ト爲リタルトキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、其ノ申告ヲ要セサルモノニ付テハ稅務署長カ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第二節 分筆及合筆

第二十八條 本法ニ於テ分筆ト稱スルハ一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂ヒ合筆ト稱スルハ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト爲スヲ謂フ

第二十九條 分筆又ハ合筆ヲ爲サントスルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十條 一筆ノ土地ノ一部カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條ノ申告ナキ場合ニ於テ稅務署長ハ其ノ土地ヲ分筆ス

- 一 別地目ト爲ルトキ
- 二 無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲ルトキ



- 三 所有者ヲ異ニスルトキハ...
- 四 買權又ハ百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- 五 地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條 分筆シタル土地ニ付テハ分筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ヲ定ム

2 合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス

3 特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 分筆ヲ爲シタルトキハ測量シテ各筆ノ地積ヲ定ム

2 合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ地積ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ地積トス

第三十三條 分筆ヲ爲シタルトキハ各筆ノ品位及情況ニ應シ分筆前ノ賃賃價格ヲ配分シテ其ノ賃賃價格ヲ定ム

2 合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ賃賃價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃賃價格トス

第三節 開墾

第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日以内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(開墾前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地租變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セス

2 二十年内ニ成功シ能ハサル開墾地ニ付テハ前項ノ年期中ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス

3 前項ノ年期中滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期中延長ヲ許可スルコトヲ得

4 宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期中短縮スルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ開墾減租年期中許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著手ノ日ヨリ三十日以内ニ開墾減租年期中延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セス

2 開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期中ハ消滅ス

第三十九條 開墾減租年期中ニ付テハ土地所有者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年斯滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直チニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾減租年期中除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

2 開墾減租年期中ニ付テハ其ノ年期中滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期中滿了スルモ尙開墾成功セサル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第四十二條 開墾ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換

第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十六條 二十年内ニ成功シ能ハサル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換着手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

2 前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ二十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得  
3 宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換着手ノ日ヨリ三十日內ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目

ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セス

2 地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第四十九條 地目變換減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ(地目變換減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

2 地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セサル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地 免 租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地トナリタル年及其ノ翌年ヨリ十五年內ノ荒地

免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期満了スルモ尙荒地ノ形状ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

3 海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年内トス其ノ年期満了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

2 荒地免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ満了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第五十七條 荒地免租年期地ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條 開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期満了ニ至ル迄ハ開拓減租年期埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換

地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ満了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條 荒地免租年期地ニ付テハ納稅義務者ハ年期ノ満了スル年ノ六月三十日迄ニ年期満了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第六十二條 荒地免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ満了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第六十三條 荒地免租年期ノ満了ニ因リ賃賃價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條 荒地免租年期ノ満了ニ因リ賃賃價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

### 第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ賃賃價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未タ土地臺帳ヲ更正セサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スヘシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得  
 第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ  
 之ヲ控除セス

第四章 自作農地免租

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者(法人ヲ除ク)ノ住所地市町村又隣接市町村内  
 ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ  
 申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑  
 ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 2 民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該  
 田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依  
 リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス  
 第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所地市町村ヲ經由シ稅  
 務署長ニ申請スヘシ前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ  
 納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スヘシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ賃賃價格ノ合計金額ニ依リ算  
 出シ之ヲ徵收ス但シ賃賃價格ノ合計金額カ一圓ニ滿タサルトキハ地租ヲ徵收セス  
 2 田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額並ニ其ノ各納  
 期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス  
 2 前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スヘ  
 シ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃賃價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準シ  
 稅務署長ニ報告スヘシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ  
 監督セシムヘシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ  
 外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス  
 第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃賃價格ヲ土地臺帳ニ登録シタルトキ  
 又ハ登録ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スヘシ  
 第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村内ニ現住セザルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシム

ル爲其ノ市町村内ニ現住スル者ニ就キ納税管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ  
第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者カ爲スヘカリシ申告ハ所有者ノ變更アリ  
タル日ヨリ三十日内ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スヘキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長  
キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登録セラレタル質權者又ハ地上權者  
ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲ササルトキハ五十圓以下ノ過料  
ニ處ス

非訟事件手続法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十三條 詐偽其ノ他不正行爲ニ依リ地租ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ五倍ニ相當スル  
罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徴收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪  
ヲ問ハス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條  
第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サス仍テ地租ニ不足額アルトキ  
ハ直ニ之ヲ徴收ス

第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徴收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラス當該土地一  
筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ  
他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ市長ニ關ス  
ル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル  
規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セス

第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地ニ租稅其ノ他  
ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ  
於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限りニ在ラス

附 則

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限り第十條ノ規定中百分ノ  
三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ  
其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日  
ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日  
限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例

災害地租免除法

宅地地價修正法

明治七年第二百十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律第三十號

明治三十七年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

大正十五年法律第四十七號

第九十二條

土地賃賃價格調査法ニ依リ賃賃價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃賃價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃賃價格トス但シ其ノ賃賃價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額カ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃賃價格トス

第九十三條

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ定ム

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準

シ前條ノ賃賃價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃賃價格ヲ定ム

第九十四條

舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ原地價ニ復セサルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ定ム

第九十五條

前三條ノ規定ニ依リ賃賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條

本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未タ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲ササルモノニシテ本法中ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九

十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十七條

舊法ニ依ル届出又ハ申請ニシテ本法中ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依ル申告又ハ申請ト看做ス

第九十八條

舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未タ二十年ヲ經過セサルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變

換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條

舊法ニ依リ免租年期、減租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ年期ノ滿了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減租年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス

二 地租條例第十六條第四項ノ減租年期ハ第十九條第一項ノ開墾減租年期トス

- 三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十條第一項ノ埋立免租年期トス
- 四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス
- 五 明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準シ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス
- 六 地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス
- 七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス
- 前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス
- 第一百條 地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラス當分ノ内左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
  - 一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
  - 二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方ヲ步、三十步ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ步未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ筆ノ地積一步未滿ナルモノニ付テハ步ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 第一百條 舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス
- 第一百三條 小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

〔參照〕

明治三十四年四月十三日公布法律第三十號ハ鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關

スル件、同年同月同日公布法律第三十一號ハ開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル件、同三十七年四月一日公布法律第十二號ハ地租徵收ニ關スル件、同年同月同日公布法律第十六號ハ渡良瀨川沿岸地方特別地價修正ノ件、大正十五年三月三十一日公布法律第四十七號ハ舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタル田畑ノ地租免除ニ關スル件ナリ

# 地租法施行規則

(昭和六年四月一日 勅令第四十七號)

## 第一章 總則

第一條 地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、北海道地方費

二 市町村學校組合、町村學校組合、學區

三 水利組合、水利組合聯合、北海道土功組合

第二條 土地ノ所有權、質權又ハ地上權ノ得喪變更ニ關スル事項ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ土地臺帳ニ之ヲ登録セス但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ヲ生シタルトキ

二 未登記ノ土地カ土地臺帳ニ登録ヲ要セサル土地ト爲リタルトキ

三 未登記ノ土地カ收用セラレタルトキ

第三條 土地臺帳ニ登録セラレタル土地所有者、質權者又ハ地上權者其ノ住所ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ其ノ氏名若ハ名稱ヲ改メタルトキハ遲滞ナク之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四條 土地臺帳謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ土地一筆ニ付十錢ノ手数料ヲ納メ稅務署長ニ之ヲ請求スヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ



3 贖本ハ送付ニ要スル郵便切手ヲ提供シテ之カ郵送ヲ求ムルコトヲ得

4 國有地又ハ御料地ノ拂下又ハ讓與ニ係ル土地ニシテ未登記ノモノニ付テハ贖本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ス

5 土地臺帳贖本ノ書式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 北海道、鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ於ケル地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

北海道

一 宅地租

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限 年額ノ二分ノ一

第二期 其ノ他

第一期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

第二期 翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

鹿兒島縣大島郡十島村

第一期 翌年五月一日ヨリ八月三十一日限 年額全部

鹿兒島縣大島郡(十島村ヲ除ク)

翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額全部

沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一 宅地租及田租

其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

翌年五月一日ヨリ三十一日限

翌年五月一日ヨリ七月三十一日限

沖繩縣宮古郡(平良村字埴川、仲筋、水納ヲ除ク)、八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)

一 宅地租

翌年三月一日ヨリ三十一日限

二 田租

其ノ年ノ七月一日ヨリ三十一日限

三 其ノ他

翌年五月一日ヨリ三十一日限

第二章 土地ノ異動

第六條 土地ノ異動ニ關スル申告書(年期満了申告書ヲ含ム)ニハ異動ノ種類ヲ表示シ原地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)並ニ異動シタル地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スヘシ

2 前項ノ申告書中新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ニ關スル申告書又ハ分筆ノ申告書ニハ地積ノ測量圖

ヲ添附スヘシ其ノ他ノ申告書ニシテ之ニ記載シタル異動地ノ地積カ其ノ原地ノ地積ト同一ナラサルモノニ付亦同シ

第七條 減租年期又ハ免租年期ノ申請書ニハ年期ノ種類ヲ表示シ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃賃價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃賃價格ヲ除ク)ヲ記載シ尙左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ニ付テハ有租地ト爲リタル事由
- 二 二十年ノ開墾減租年期ニ付テハ開墾ノ豫定地目及著手ノ日
- 三 四十年ノ開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ニ付テハ開墾又ハ變換ノ豫定地目、著手ノ日及事業計畫
- 四 荒地免租年期ニ付テハ荒地ト爲リタル事由、被害ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期
- 五 前各號ノ年期ノ延長ニ付テハ土地ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

第八條 開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニ付開墾若ハ變換ノ豫定地目ヲ變更シ又ハ開墾若ハ變換ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク稅務署長ニ之ヲ申告スヘシ

### 第三章 災害地免租

第九條 災害地免租ノ申請書ニハ收穫皆無ニ歸シタル事由、被害ノ狀況、土地ノ所在、地番、地目、地積及賃賃價格ヲ記載スヘシ

第十條 災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認ヲ受ケル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ作毛ヲ存置スヘシ

第十一條 地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル  
一 地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地(變換又ハ開墾前ノ土地)ノ地租ヲ免除ス  
二 耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地ニ相當スル従前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

### 第四章 自作農地免租

第十二條 地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申告スヘシ  
一 永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、地積及賃賃價格  
二 田畑所有者ノ住所及氏名  
三 永小作權設定ノ年月日

2 前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申告ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス

第十五條 地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スヘシ但シ申請者カ其ノ住所地及隣接市町村内ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ

其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 市町村ハ其ノ市町村内ニ於ケル田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者（地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム）ノ住所カ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃賃價格合計金額ヲ毎年三月中ニ其ノ住所地市町村ニ通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ住所地市町村ニ通知スヘシ

第十七條 市町村ハ隣接市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ

### 第五章 地租徴收

第十八條 市町村ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ報告ヲ爲スヘシ

第十九條 市町村ハ其ノ市町村内ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スヘシ

地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

### 第六章 雜則

第二十條 地租法以外ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除スル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許否ノ通知ハ土地所在ノ市町村ヲ經由スヘシ

第二十二條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ市長ニ關スル區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限り第五條ノ規定中北海道宅地租第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡宅地租及田租其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣宮古郡（平良村字埴川、仲筋、水納ヲ除ク）八重山郡（八重山村字波照間、與那國ヲ除ク）田租其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、第十六條第一項ノ規定中三月中トアルハ二十月中トス



地租法施行細則

四九〇

備考

一、土地臺帳ハ地番順ニ之ヲ編纂シ紙數凡二百葉ヲ以テ一冊ト爲シ左記書式ノ表紙ヲ附スルモノトス

市	町	村	大字	地	番	臺	帳
何稅務署(副本ハ何市) 町村役場							

二、共有者ノ人員多數ニシテ一行ニ記載シ得サル場合ハ左記書式ハ共有者氏名表ヲ添附スルモノトス

共有者氏名表							
字	地	番	所	氏名又ハ 稱	登記 年月日	事由	共有 持分
住	所	氏名又ハ 稱	登記 年月日	事由	共有 持分	住	所
所	氏名又ハ 稱	登記 年月日	事由	共有 持分	住	所	氏名又ハ 稱

第二號書式 (土地臺帳曆本)

土地臺帳曆本

郡市	町村	大字	字	地番	地目	地積	賃貸價格	事	由	所有者ノ住所及 氏名又ハ名稱
何稅務署(印)										

備考

一、數筆ヲ連記スルモ妨ケナシ

第三號書式 (地租名寄帳)

「田」ノ部		納稅義務者住所 及氏名又ハ名稱		納稅管理人ノ住 所及氏名		現在額		異動及 大字		地目		地積		賃貸價格		地租		摘要	

備考

一、地租名寄帳ハ田、畑、宅地及雜地(田、畑、宅地以外ノ土地)四科目ニ區分シ尙各科目ノ合計ヲ附シ左ノ書式ノ表紙ヲ附スルモノトス

地租名寄帳	何市町村役場
-------	--------

二、稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

第四號書式 (地租納額報告書)

年 月 日提出

地租法施行細則

四九一

年 租第 期分地租納額「異動」報告書

何市町村長

月	日現在額	貸賃價格總額	地租總額	納額	人
					員

右ノ外自作農地免租ニ係ルモノ及貸賃價格ノ合計金額一圓未滿ノモノ左ノ如シ

納	要	貸賃價格總額	人	員

備考

- 一、田租、畑租、宅地租及雜地租ニ區分シテ調製スルモノトス
- 二、異動報告書ニハ異動額(増ハ墨書、減赤書)ノミヲ當該欄ニ記載スルモノトス
- 三、所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

〔參照〕

明治三十八年十一月十六日大藏省令第五十號 收入印紙ヲ以テ納ムモノ  
 收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手數料種目左ノ如シ

二 土地臺帳簿本手數料

明治二十二年七月一日大藏省訓令第四十九號ハ土地臺帳樣式及調製方ノ件、大正三年三月二十三日大藏省令第五號ハ災害地地租免除法施行ノ件ナリ

所得稅法

(大正九年七月三十一日法律第十一號)

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス (大正十二年三月法律第二十九號改正)

- 一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ
- 二 本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ (大正十二年三月法律第八號、同月同第二十九號改正)
- 三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付テ賦課ス (大正十五年三月法律第八號改正)

第一種

- 甲 法人ノ普通所得
- 乙 法人ノ超過所得
- 丙 法人ノ清算所得

第二種

- 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益 (大正十二年三月法律第八號改正)

所得稅法

年三月法律第二十九號改正)

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ二 信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)

2 前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得稅ヲ賦課ス

3 受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス(大正十一年四月法律第四十五號改正)

4 信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス(大正十二年三月法律第二十九號追加)

第三條ノ三 本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財産ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ(大正十五年三月法律第八號追加)

第四條 法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在

リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル(同上改正)

2 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ普通所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス(同上)

3 法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス(大正十五年三月法律第八號改正)

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

2 前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ(大正十五年三月法律第八號改正)

第九條 削除(大正十五年三月法律第八號改正)

第十條 削除(同上)

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超

超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス(同上改正)

2 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス(同上)

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第二種ノ所得ハ其支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス(大正十五年三月法律第八號改正)

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨ

リ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

2 株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス(同上)

3 第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相続人ノ所得ハ之ヲ相続人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相続シタル資産又ハ營業ハ相続人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ

計算ス(同上)

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス(同上)

一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二

二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三 所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一

2 戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ(同上)

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癡疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ



- 2 戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ
- 3 前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス (大正十五年三月法律第八號改正)
- 4 同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ
- 5 第一項ノ不具癡疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム
- 2 第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス (大正十一年四月法律第四十五號改正)
- 第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限り命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス (大正十二年四月法律第四十一號追加)
- 第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス (大正十五年三月法律第八號改正)
- 第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス (同上)
  - 一 軍人從軍中ノ俸給及手當

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退職料

三 旅費、學資金及法定扶助料

四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ (大正十五年三月法律第八號改正)

2 戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス (同上)

甲 普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人 百分ノ五

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人 百分ノ十

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ逐次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ百分ノ十ノ割合ヲ以テ

算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ四  
 同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十  
 同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス  
 積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五  
 其ノ他ノ金額 百分ノ十

2 法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス (同上)

3 前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス (同上)

4 前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス (同上)

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額 (各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方) ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得 (同上追加)

一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

2 本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ (同上)

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 甲 公債ノ利子 百分ノ四
- 其ノ他 百分ノ五
- 乙 百分ノ七、五

2 信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス (大正十五年三月法律第八號追加)

3 前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス (同上)  
 第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ逐次ニ各稅率ヲ適用シテ之

ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス (同上改正)

千二百圓以下ノ金額	百分ノ〇、八	千二百圓ヲ超ユル金額	百分ノ二
千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ三	二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五	五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ六、五
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八	一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九、五
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一	二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五	五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九	十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三	五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七	二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十三	四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六

2 前項ノ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ按分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添付シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セ

ナル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添付スヘシ

2 前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ (大正十五年三月法律第八號改正)

2 第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ (同上)

第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

2 所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得 (大正十二年三月法律第八號追加)

3 所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス (大正十二年三月法律第八號改正)

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

2 前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス (大正十二年三月法律第八號追加)

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調查委員會ヲ置クコトヲ得 (大正十二年三月法律第八號追加)

2 調查委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 調查委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

2 調查委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調查委員及補闕員ノ選舉區域ハ所得調查委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル (大正十二年三月法律第八號改正)

2 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス(同上追加)

第三十一條 選舉區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス (大正十五年三月法律第八號改正)

一 無能力者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

2 其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス (同上追加)

3 前二項ノ場合ニ於テ被相続人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相続人ノ納稅又ハ申告ト看做ス (同上改正)

4 選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

2 第三十條第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス (同上追加)

第三十三條 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

2 市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

2 投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

3 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載

シテ投票スヘシ

4 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十五條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

2 立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

2 調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

2 市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス (大正十五年三月法律第八號改正)

2 選舉區域ノ變更ニ因リ其ノ區域ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ經營ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選舉

區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス (同上)

3 第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス (同上)

第四十二條 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條 調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

2 調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

2 選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條 調査委員又ハ補闕員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉

區内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ (大正十五年三月法律第八號改正)

第四十六條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

2 議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル  
 第五十條 調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス  
 第五十一條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス (大正十五年三月法律第八號改正)

2 所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス (同上)

第五十二條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ附ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ政府ニ提出スヘシ  
 一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額  
 二 利子支拂期限及利率  
 三 償還ノ方法及期限  
 四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調査書ヲ政府ニ提出スヘシ  
 2 信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ  
 3 第一項又ハ前項ノ支拂調査書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得 (大正十一年四月法律第四十五號改正)

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調査書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得 (大正十一年四月法律第四十五號改正)

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (大正十五年三月法律第八號改正)

2 本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アルト

キハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得 (大正十五年三月法律第八號改正)

2 前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

2 所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

3 第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄內ニ所得審査委員會ヲ置ク

2 所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄內各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

3 所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ

定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上

ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタル

トキハ此ノ限ニ在ラス (大正十五年三月法律第八號改正)

2 所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セ

ス (同上)

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス (同上)

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

2 第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

3 第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得 (大正十五年三月法律第八號改正)

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セララルル稅金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所外、住所ナキトキハ居所外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ納稅地トス但シ住所外ニ在ル者ハ申告シテ居所ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

2 本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得 (大正十二年三月法律第八號大正十五年三月同第八號改正)

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

2 前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ通脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス (大正十二年三月法律第八號改正)

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

2 前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス (大正十一年四月法律第四十五號改正)

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大正九年分所得稅



- ニ付テハ之ヲ適用セス
- 3 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ従前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限り、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正九年分第三種所得トシテ計算ス
- 第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス
- 第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル
- 第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限り本稅ノ三割五分ヲ増徴ス
- 2 大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付テハ本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ三割五分ヲ増徴ス
- 第八十二條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十五年五月一日迄ハ仍従前ノ規定ニ依ル但シ従前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス
- 2 従前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補闕員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス
- 第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限り第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

附 則

(大正十五年三月法律第八號)

- 1 本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
- 3 第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算セス
- 4 第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限り四月一日トス
- 5 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル
- 6 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍従前ノ例ニ依ル
- 7 従前ノ規定ニ依ル所得調査委員及補闕員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス
- 8 第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス

### 所得稅法施行規則

(大正九年七月三十一日勅令第二百二十六號)

**第一條** 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス (大正十五年三月勅令第二十九號追加)

**第二條ノ二** 法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス (同上條數移動)

2 前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

3 前二項ノ規定ハ所得稅法第二十一條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

**第二條** 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅法施行地ニ於ケル資産價格ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

2 前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

**第三條** 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第四條** 所得稅法第二十一條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル (大正十五年三月勅令第二十九號)

本條改正)

2 前項ノ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ所得稅法第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十ニ倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス (同上)

2 前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル (同上)

2 前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ按分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ (同上追加)

2 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第六條ノ三 所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ控除スヘ

キ第二種ノ所得稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅徵收ノ際之ヲ控除スヘシ(同上)  
第六條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第六條ノ二ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者又ハ前條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得 (同上)

第七條 所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ  
2 所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定ニ依リ所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依リ所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

第八條ノ二 所得稅法第十五條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ按分シテ之ヲ計算ス (大正十五年三月勅令第二十九號追加)

第九條 所得稅法第十六條ノ不具癡疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二 所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セサル

トキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ稅務署長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム (大正十五年三月勅令第二十九號追加)

第十條 所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癡疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癡疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ (同上)

3 所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條ノ二 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ所得稅法第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス (大正十三年二月勅令第二十三號追加、十五年三月勅令第二十九號改正)

2 同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第十一條ノ三 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄稅務

署ニ提出スヘシ (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

一 保險者ノ住所及名稱

二 保險ノ種類

三 保險金額

四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄

五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額

2 其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ (同上)

第十一條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 左ニ掲クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ (大正十二年三月勅令第七十八號、十五年三月勅令第二十九號改正)

二 朝鮮、臺灣、關東洲又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

第十三條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金

二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)

三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五 燐、曹達灰、苛性曹達、石灰窒素、燐酸アムモニウム、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール

六 酸加里及グリセリン

七 製紙用バルブ

八 板硝子

九 コンデンズドミルク

十 絹、亞麻又ハ毛ノ織物

二 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十五條 所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第二十四條又ハ第二

第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

(大正十五年三月勅令第二十九號改正)

二 前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ殘餘財產ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人

之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類、金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

二 所得稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 所得稅法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ

之ヲ所轄稅務所ニ提出スヘシ (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

- 一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限
- 二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限
- 三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十一條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ (同上)

- 一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日
- 二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受クル者ノ拂込金額別、株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別、株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎
- 三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ

付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ異動調書ヲ提出スヘシ (同上)

第二十二條ノ二 信託ノ受託者ハ左ノ期限ニ從ヒ各信託ノ計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ貸付信託ニシテ受益者個人ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス (同上)

- 一 信託會社ニ在リテハ每事業年度終了後二十日限
- 二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年三月十五日限
- 三 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十二條ノ三 前條ノ住所及氏名

- 一 委託者及受益者ノ住所及氏名
- 二 信託行爲ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日ニ於ケル信託財産ノ種類及現在額並信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間中ニ於ケル信託財産ノ異動及信託ニ關スル收入支出 (大正十五年三月勅令第二十九號改正)
- 三 前各號ニ掲クルモノノ外信託行爲ノ内容ニ關スル事項 (大正十一年十二月勅令第五百十三號追加)

第二十三條 第二十條、第二十二條又ハ第二十二條ノ二ニ規定スル調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス (大正十一年十二月勅令第五百十三號改正)

- 一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル調書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五厘

- 二 第二十二條ノニニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三錢
- 2 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調査書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ (同上)
- 第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調査委員會ヲ置クヘキ市ハ大藏大臣之ヲ指定ス (大正十二年三月勅令第七十八號改正)
- 第二十五條 調査委員ノ定數ハ七人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得 (大正十五年三月勅令第二十九號改正)
- 第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ
- 第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製シ副本ヲ市區町村長又ハ戸長ニ送付スヘシ
- 2 市區町村長又ハ戸長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ五日間市區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ
- 3 關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定スヘシ
- 4 前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期日前市區町村長又ハ戸長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セシムヘシ
- 5 選舉人名簿ハ選舉期日ノ前日ヲ以テ確定ス
- 6 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大藏大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラス

別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 第二十八條 市區町村長又ハ戸長ハ投票區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ
- 第二十九條 投票ノ効力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戸長ハ之ヲ決スヘシ
- 第三十條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ノ有効無効ヲ區別シ調査委員ノ任期間之ヲ保存スヘシ
- 第三十一條 投票ノ調査終リタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ報告スヘシ
  - 一 投票及開票ノ日時及場所
  - 二 投票及開票ノ立會人ノ住所及氏名
  - 三 投票人及投票ノ總數並有効投票及無効投票ノ數
  - 四 投票ヲ無効ト決定シタル事由
  - 五 被選舉人ノ氏名及其ノ得票數
- 第三十二條 選舉會ハ豫メ稅務署長ノ公示シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開ク
- 第三十三條 稅務署長ハ選舉區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ選舉會ニ立會ハシムヘシ
- 第三十四條 所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區内ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者及所得稅ヲ納メスシテ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ納メタル者ノ合計數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム (大正十五年三月勅令第二十九號改正)  
五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内  
 千人以上ナルトキ 二十日以内  
 五百人以上ナルトキ 十五日以内  
 五百人未満ナルトキ 十日以内

第二十五條 所得調査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齢多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十六條 所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第三十七條 稅務署長所得稅法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

第三十八條 所得稅法第五十九條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 所得稅法第六十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ所得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第四十條 審査委員及其ノ補闕員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十一條 審査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

2 補闕員ハ稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員之ヲ互選ス

第四十二條 稅務監督局長ハ審査委員及補闕員ノ選舉期日、投票時間及投票場所ヲ定メ之ヲ調査委員

ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送付スヘシ

2 前項ノ規定ニ依ル通知ニハ之ヲ受クヘキ調査委員ノ屬スル府縣又ハ北海道ニ於ケル調査委員ノ氏名表ヲ添付スヘシ

第四十三條 審査委員及補闕員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

2 投票ハ審査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

3 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載

シテ投票スヘシ但シ相當ノ事由ニ因リ自ラ投票所ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ無効トス

第四十四條 稅務監督局長ハ調査委員中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第四十五條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 審査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第四十七條 審査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ニ當選ノ通知ヲ爲シ且其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十八條 審査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第四十九條 審査委員及補闕員ハ稅務監督局所轄内ニ於ケル調査委員全部ノ改選アリタルトキ之ヲ改選ス (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

第五十條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕員ヲ以テ之ヲ補充ス但



シ北海道ニ在リテハ補闕員中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年  
齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ闕員ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ審査員ノ補闕選舉ヲ行フ  
第五十一條 審査委員又ハ補闕員ニシテ調査委員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十二條 所得審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク  
第五十三條 所得審査委員會ハ開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ  
第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス  
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十五條 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中年齡多キ者會長ノ職務ヲ代  
理ス  
第五十六條 審査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十七條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第五十八條 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ  
第五十九條 稅務監督局長所得稅法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルトキ  
ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (大正十五年三月勅令第二十九號改正)

第六十條 納稅義務者所得稅法第六十四條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ  
同時ニ所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得  
第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第六十一條 所得稅法第六十四條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノ  
ナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ (大  
正十五年三月勅令第二十九號改正)

第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者  
ニ通知スヘシ  
第六十三條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅法第十五條第二項、第十六條第二項、第二  
十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ノ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、  
額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第六十五條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計  
算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ尙其  
ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ (大正十一年三月勅令第七十一號改正)

第六十六條 所得稅法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ稅務署ニ  
申告スヘシ申告ナキトキハ稅務署長其ノ納稅地ヲ指定ス

第六十七條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキハ  
其ノ居所地ノ稅務署ニ申告スヘシ  
第六十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地  
ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十條 納稅義務者所得稅法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十一條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十一條ノ二 臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ大正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス (大正十年四月勅令第六十九號追加十一年三月同第九號修正)

臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ臺灣又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外大正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス (同上)

一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 所得稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第七十二條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル (大正十年四月勅令第六十九號修正)

六十九號改正)

2 第十四條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第七十三條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ (大正十年四月勅令第六十九號改正)

附 則

1 本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ所得稅法第十六條ノ規定ノ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

3 本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル所得稅免除ノ申請及第三種ノ所得ニ關スル申告ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

4 本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

5 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

6 大正二年勅令第六十九號ハ之ヲ廢止ス (大正十五年三月勅令第二十九號)

附 則

1 本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (大正十五年三月勅令第二十九號)

- 2 第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十五條、第二十條、第二十二條及第二十二條ノ二ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
- 3 大正十五年ニ限り第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス
- 4 大正十六年ニ限り第三十四條ノ改正規定中營業收益稅トアルハ營業稅トス

本令は、大正十五年三月二十七日法律第十一號（昭和六年四月）改正（法律第四十七號）營業收益稅法（大正十五年三月二十七日法律第十一號）の施行規則として制定し、大正十五年三月二十七日から施行する。本令は、大正十五年三月二十七日法律第十一號（昭和六年四月）改正（法律第四十七號）營業收益稅法（大正十五年三月二十七日法律第十一號）の施行規則として制定し、大正十五年三月二十七日から施行する。本令は、大正十五年三月二十七日法律第十一號（昭和六年四月）改正（法律第四十七號）營業收益稅法（大正十五年三月二十七日法律第十一號）の施行規則として制定し、大正十五年三月二十七日から施行する。

### 營業收益稅法

（大正十五年三月二十七日）  
法律第十一號

改正（昭和六年四月）  
法律第四十七號

- 第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス
- 第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス
  - 一 物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
  - 二 銀行業
  - 三 無盡業
  - 四 金錢貸付業
  - 五 物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
  - 六 製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
  - 七 運送業（運送取扱ヲ含ム）
  - 八 倉庫業
  - 九 請負業
  - 十 印刷業
  - 十一 出版業
  - 十二 寫真業
  - 十三 庶務業
  - 十四 旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス）

- 十五 料理店業
- 十六 周旋業
- 十七 代理業
- 十八 仲立業
- 十九 問屋業

第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條 法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

2 法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ依リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

2 相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

8 資本利子稅ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

- 第七條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス
- 一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
- 二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣

三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣

四 新聞紙法ニ依ル出版

五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

六 法人ノ漁業又ハ演劇興業

七 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス (昭和六年法律第四十七號改正)

法 個人ノ純益金額千圓以下ナルトキ 百分ノ二・二

2 法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

8 個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

- 4 前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子税ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス
- 第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ
- 第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ
- 第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
- 第十四條 所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スルハカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得
- 第十五條 所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス
- 第十六條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ
- 第十七條 前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十八條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス
- 第十九條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

- 第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十八條 前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス
- 第十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
- 第二十條 所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十一條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十二條 純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス
- 第二十三條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス
- 第二十四條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス
- 第二十六條 個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス
  - 第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
  - 第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限
- 第二十七條 第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ

納税スルコトヲ得

第二十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

2 前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スヘシ

第二十七條 所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢査ヲ妨ケ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

2 前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ遁脫シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ハラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四

十一條、第四十八條第二項第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

1 本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

附 則

(昭和六年四月一日法律第四十七號)

1 本法ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和六年分ノ個人營業收益稅ニ限り改正規定中百分ノ二・二トアルハ百分ノ二・五、百分ノ二・六トアルハ百分ノ二・八トス

2 昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅及昭和五年分以前ノ個人ノ營業收益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十四條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第二十五條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第二十六條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第二十七條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第二十八條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第二十九條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十一條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十二條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十三條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十四條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十五條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十六條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十七條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十八條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第三十九條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ  
 第四十條 法人ノ營業收益稅ノ納付地ハ所在地ニ在リ

### 營業收益稅法施行規則

(大正十五年九月九日) 勅令第三〇三號

改正 (昭和六年四月一日) 勅令第四十八號

第一條 法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス  
 2 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第二條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地又ハ資本ノ利子ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三・四ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス (昭和六年勅令第四十八號改正)

2 前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地又ハ資本ノ利子アルトキハ其ノ地租總額又ハ資本利子稅總額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第三條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額中公債、社債又ハ產業債券ニ對スルモノハ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

2 前項ノ公債、社債又ハ産業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル資本利子稅額ハ其ノ納付シタル資本利子稅額ヲ其ノ公債、社債又ハ産業債券ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第四條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額又ハ資本利子稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十一條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ  
2 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別又ハ資本利子ノ種類別ニ其賃貸價格又ハ利子、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ (昭和六年勅令第四八號改正)

第五條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第七條 營業收益稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

2 前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ營業收益稅法第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

3 第二條第二項ノ規定ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付キ之ヲ準用ス

第九條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

2 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地番、地目、賃貸價格及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ (昭和六年勅令第四十八號改正)

第十條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金

二 鐵ノ條、竿、テーパー型アンヅル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)

三 銅ノ合金ノ條、竿板及管

四 汽機、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五 燐、曹達灰、苛性曹達、石灰窒素、磷酸アムモニウム、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール

六 酸加里及グリセリン

七 製紙用バルブ

八 硝子

九 コンデンスドミルク

十 絹、亞麻又ハ毛ノ織物



2 前項第九號ノ物産ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十一條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十二條 營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第十一條又ハ第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

2 前項ノ場合ニ於テ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益ト有スルトキハ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 稅務署長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ見込額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

2 前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條 稅務署長營業收益稅法第十三條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 營業收益稅法第十七條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第十八條 所得稅法施行規則第五十六條ノ規定ハ純益金額ノ決議ニ付之ヲ準用ス

第十九條 稅務監督局長營業收益稅法第十八條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十條 營業收益稅法第十九條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第二十一條 稅務署長營業收益稅法第二十條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十二條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第二十三條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第二十四條 收稅官吏營業收益稅法第二十五條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スヘシ

附 則  
本令ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ當該事業年度ノ總日數ニ對スル大正十六年ニ屬スル日數ノ割合ヲ其ノ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ニ乘シ之ヲ計算ス

附 則

(昭和五年勅令第十八號改正)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

個人ノ純益ニ付テハ昭和五年分營業收益稅ヨリ本令ヲ適用ス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ純益ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附 則

(昭和六年勅令第四十八號改正)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ改正規定ハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス  
昭和五年分以前ノ地租額ニ關スル明細書ハ仍從前ノ例ニ依ル

道府縣手数料令

(明治四十三年勅令第二九號)

第一條 道府縣ハ左ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得但シ東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 賣藥部外品ニ關スル各種ノ免許手数料並同免許鑑札名義書換及再渡手数料
  - 一 產婆試驗手数料及產婆名簿謄本手数料
  - 一 鍼術灸術按摩術「マツサージ」術柔道整復術免許試驗手数料、同免許手数料及同免許鑑札再渡手数料
  - 一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム)免許試驗手数料、同免許手数料及同免狀再渡手数料
  - 一 自動車運轉手免許試驗手数料、自動車運轉手就業地變更ニ依ル試驗手数料及自動車運轉手免許證再交付手数料
  - 一 自動車檢査證交付手数料及自動車檢査證再交付手数料
  - 一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手数料及同檢査證明手数料
  - 一 重要物產檢査手数料及同檢査證明手数料
- 第二條 檢査ヲ行フ重要物產ノ種類並前條ノ手数料額及手数料ノ免除ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 賣藥部外品ノ免許手数料及

### 手数料免除等ニ關スル件

(明治四十三年)  
(内務省令第一九號)

第一條 明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依リ道府縣ニ於テ徵收スル手数料ハ左記金額ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 賣藥部外品免許手数料 一方ニ付 金貳拾錢
- 一 賣藥部外品免許鑑札名義書換及再渡手数料 一回ニ付 金拾錢
- 一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手数料 一方ニ付 金拾錢
- 一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手数料 一回ニ付 金拾錢
- 一 產婆試驗手数料 金壹圓
- 一 產婆名簿謄本手数料 金五拾錢
- 一 鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許試驗手数料 各金壹圓
- 一 鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許手数料 各金五拾錢
- 一 鍼術、灸術、按摩術、「マツサージ」術、柔道整復術免許鑑札再渡手数料 各金貳拾錢
- 一 看護婦 (看護婦規則ノ準用) 免許、試驗手数料 金壹圓
- 一 看護婦 (看護婦規則ノ準用) 免許手續料 (看護婦規則ノ準用) 金五拾錢

- 一 看護婦 (看護婦規則ノ準用) 免許再渡手数料 金貳拾錢
- 一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品検査手数料 一回ニ付 金壹圓
- 一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品検査證明手数料 證明書一枚ニ付 金五拾錢
- 一 竝検査票ヲ貼付スヘキ容器 一箇ニ付 金貳錢
- 一 自動車運轉手免許試驗手数料 甲種 金參圓  
乙種 金貳圓
- 一 自動車運轉手就業地變更ニ依ル試驗手数料 一回ニ付 金五拾錢
- 一 自動車運轉手免許證再交付手数料 一臺ニ付 金壹圓
- 一 自動車検査證再交付手数料 一回ニ付 金五拾錢
- 一 自動車検査證再交付手数料 一回ニ付 金壹圓

### 附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 重要附則ノ對査手續料ニ關スル件

賣藥部外品ノ免許手数料及手数料免除等ニ關スル件

重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

(明治四十三年)  
(農商務省令第六號)

第一條 明治四十三年勅令第二百十九號第二條ニ依ル重要物産ノ種類ヲ左ノ通指定ス

米、雜穀、砂糖、菓工品、織物、青苳、花苳、原料蘭、木炭、阿旦葉帽子、紙撚帽子、燐寸、硝子製品、琉璃鐵器、製帽用眞田、莫大小製品、澱粉、鉛筆及鉛筆心、果樹苗木、桑苗木、果樹砧木、觀賞植物、縫針、繭詰、亞麻莖、除蟲菊、薄荷取卸油、苹果、西瓜、蘭製墨表、栗、柑橘、節類、魚肥料、魚油、漉海苔、海藻、甘藷切干、鷄卵、寒天、魚類乾製品(食用ニ供スルモノ)、魚類鹽藏品、魚貝類、乾製品、魚卵製品、乾蝦、海參、錫、鮪酢漬品

第二條 検査手数料ハ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

- 米 一俵一袋又ハ一叭ニ付 金拾錢
- 雜穀 同上 金七錢
- 砂糖 一樽、一俵又ハ一袋ニ付 金七錢
- 織物 一匹又ハ一本ニ付 金貳錢
- 青苳 一束ニ付 金參錢
- 花苳 一卷ニ付 金參錢
- 但シ毛織物ニ在リテハ一碼ニ付金一錢、輸出向ニ非サル小幅絹織物ニ在リテハ一匹ニ付金四錢
- 但シ二十間ヲ以テ一巻トス二十間未滿亦同シ

原料 一丸ニ付 金貳錢

但シ重量五貫ヲ以テ一丸トス五貫未滿亦同シ

- 木炭 五貫ニ付 金貳錢
- 阿旦葉帽子、紙撚帽子 一箇ニ付 金壹錢
- 燐寸 一箇ニ付 金拾錢
- 硝子製品 四十才一箱ニ付 金拾錢
- 琉璃鐵器 同上 金拾五錢
- 製帽用眞田 一段ニ付 金五厘五毛
- 莫大小製品 一打ニ付 金七錢
- 澱粉 一袋又ハ二箱ニ付 金九錢
- 鉛筆及鉛筆心 一哥ニ付 金拾五錢
- 鉛筆 十哥ニ付 金拾錢
- 鉛筆心 一本ニ付 金貳厘
- 果樹苗木 十本ニ付 金參厘
- 桑苗木又ハ果樹砧木 一本又ハ一株ニ付 金六厘
- 觀賞植物 十塊又ハ十球ニ付 金五厘
- 縫針 一萬本ニ付 金四錢
- 繭詰 一箱ニ付 金八錢

重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

五五四

亞麻莖	一貫ニ付	金參厘
除蟲菊	一貫ニ付	金壹錢
薄荷取卸油	一斤ニ付	金八錢
苹果	一貫ニ付	金五厘
西瓜	一箇ニ付	金四厘
蘭製墨表	一枚ニ付	金壹錢
栗	一貫ニ付	金壹錢貳厘
柑	一箱、一俵又ハ叭ニ付	金二錢
但シ小箱(内容積一、八四八立方センチメートル以下ノモノ)ニ限リ輸出向ノモノニ在リテハ一箱ニ付金一錢		
其ノ他ノモノニ在リテハ一箱ニ付五厘		
節類	十貫ニ付	金十二錢
魚肥料	十貫ニ付	金四錢
但シ分析検査ヲ行フモノニ在リテハ十貫ニ付金七錢		
魚油	一罐ニ付	金四錢
漉海苔	十帖ニ付	金一錢
海藻	十貫ニ付	金五錢
但シ昆布乾製品ニ在リテハ十貫ニ付金十三錢		

甘藷切干	一貫ニ付	金四厘
鶏卵	四貫ニ付	金八錢
寒天	一斤ニ付	金一錢七厘
魚類乾製品(食用ニ供スルモノ)	一貫ニ付	金一錢五厘
魚類鹽藏品	一貫ニ付	金八厘
貝類乾製品	一貫ニ付	金三錢二厘
魚卵製品	一貫ニ付	金二錢
乾蝦	一貫ニ付	金一錢三厘
海參	一貫ニ付	金三錢二厘
鰺	一貫ニ付	金一錢四厘
鮓酢漬品	一貫ニ付	金九厘
米、雜穀又ハ澱粉ニ付生産検査、移出検査又ハ輸出検査等二種以上ノ検査ヲ行フ場合ニ在リテハ其ノ各検査手数料ノ額ハ前項ノ制限ニ依ルノ外之ヲ合セテ米又ハ澱粉ニ付テハ金拾五錢、雜穀ニ付テハ金拾貳錢ヲ超ユルコトヲ得ス		
第三條 道府縣ニ於テ重要物産ノ検査ヲ行ハムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ		
一、検査ヲ行フ重要物産ノ種類、其ノ検査事項、検査ノ時期、検査ノ場所、検査ノ方法、検査ノ費用、検査ノ結果、検査ノ報告、検査ノ記録、検査ノ手帳、検査ノ簿、検査ノ票、検査ノ封筒、検査ノ封紙、検査ノ封緘、検査ノ封印、検査ノ封條、検査ノ封套、検査ノ封筒、検査ノ封紙、検査ノ封緘、検査ノ封印、検査ノ封條、検査ノ封套		
一、検査ニ關スル規程		

重要物産ノ検査手数料ニ關スル件

五五五





